

ミニ内航海運史 IV 江戸時代 その6

各地の河川舟運

(3) 富士川 (山梨県、静岡県)

山形県の最上川、熊本県の球磨川とともに日本三大急流のひとつである富士川は、「川丈十八里」といわれ、南アルプス北部の山梨県と長野県の県境に位置する^{のこぎりだけ}鋸岳に源を発し、上流部では北杜市山梨県)までが長野・山梨両県の県境を成している。また、富士川は山梨県の西八代郡市川三郷町と南巨摩郡富士川町の町境で笛吹川と合流し、そのまま南流して途中で早川、さらに下って静岡県に入ると芝川などの支流を合わせ、富士市の^{かりがねつみ}雁堤の南で東海道と交差し、富士市と静岡市清水区との境で駿河湾に注いでいる。



山梨県南巨摩郡身延町の中心を流れる富士川
(写真提供：身延町)

富士川に舟運が生まれたのは、慶長12年(1607年)に徳川家康の命を受けた京都の^{すみのくろりょうい}角倉了以(1554～1614)が開鑿してからのことである。家康は、年貢米や商品物資を出さるだけ安く、しかも大量に運搬する手段として、日本各地で河川舟運の開発を進めたが、富士川舟運もそのひとつだった。了以は、その前年に京都～嵯峨間の^{おおいがわ}大堰川(保津川下流)の開削工事に成功し、河川開削・土木事業家として有名になったばかりであった。山梨県南巨摩郡富士川町には現在でも、通船から190年経った寛政9年12月に了以の功績をたたえて建てられた富士水碑が残されている。

富士水碑には、「富士川は急流で小さな丸木船でも通れなかったのを、信州・甲州の住民に荷物運搬の苦勞が多い事を思い徳川家康が、京都の角倉了位に命じ、頭脳と機械を駆使して完成した。このため、下りに1日上りは3～4日で通行できた。開通後間もなく洪水の為に水路が塞がったので、了以の息子^{つねぶみ}玄之が復旧した」と記されている。



山梨県南巨摩郡富士川町に残る富士水碑 (写真提供：富士川町企画課)

富士川には難所が多く、老瀬岩、船取岩の近くには今も、遭難者の供養塔が当時の生々しい状況を伝えている。了以は、5年間の歳月を要して富士川航路を完成させたが、土木技術が十分でなかった当時においては大変困難を極めた工事であったと想像される。

富士川の下流側は「岩淵河岸」(現在の静岡県富士市)、上流側は鰍沢、黒沢、青柳の「甲州三河岸」(現在の山梨県南巨摩郡富士川町)が主要河岸であった。

富士川舟運の役割は、甲斐国中の年貢米を川下げすることが第一だが、甲州・信州への富士川を遡航した塩の移入も重要で、「下げ米、上げ塩」と呼ばれた。塩は鰍沢河岸に運ばれた後、信州の伊那や佐久地方にまで運ばれたとされている。塩以外には塩魚、砂糖、瀬戸物、綿糸・綿布、琉球表等が富士川の遡航貨物だった。また、米、薪、生糸類等が南

部を中継地として鰍沢及び岩淵地区に運ばれ、これらは全て回船問屋を通して移出された。

富士川で運航された舟は一般に「高瀬船」と呼ばれるが、底が平板で薄いことから「笹船」ともいわれ毎朝15艘、多い日には30～40艘が上下したとされる。

江戸中期になると通船の賑わいは絶頂に達し、安永年間(1772～1781)には、川船は300艘を数えたといわれ、大量の米が陸揚げされる岩淵ではこの御城米4,000俵も入る板倉が何棟も並んで喧騒を極めていた。

御城米は甲州廻米と呼ばれ、岩淵から陸路を馬の背か大八車で約1里離れた蒲原浜(現在の静岡市清水区)まで運ばれ、ここから小舟で清水湊に転送された後、再び大型船に積み替えられて江戸に運ばれ、蔵前の倉庫に収められた。清水市の巴川岸には、現在も甲州廻米置場跡の石碑があり、その東側には山梨県の県有地も残っている。

富士川舟運はその後、人々の足としても利用され、徐々にその数は増えていくが、特に身延山(日蓮宗総本山)詣での人が多く利用した。富士川を航行する舟の数は、明治時代になると急激に増加して明治中期には最盛期を迎えたが、その後の相次ぐ鉄道の開通で大打撃を受け、明治35年の中央線八王子～甲府の開通で衰退を余儀なくさ、昭和3年に東海道線の富士から中央線の甲府につながる身延線の全線開通で、300年余にわたる使命に終止符を打った。



富士川を逆行する帆掛け船／昭和3年、鰍沢町(写真提供：富士川写真美術館・村田澄夫氏)



静岡市清水区に残る甲州廻米置場跡

【本稿は次のホームページから一部引用、または参考にいたしました】
国土交通省甲府河川国道事務所ホームページ「富士川舟運の歴史をたどる」
<http://www.ktr.mlit.go.jp/koufu/yamanashi-joho/koushu/index.htm>

山梨県富士川町ホームページ「富士川舟運」
<http://www.town.fujikawa.yamanashi.jp/kanko/meisho/fujikawa.html>

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
<http://ja.wikipedia.org/wiki/富士川>

【写真提供】

身延町役場 (山梨県南巨摩郡身延町)

富士川写真美術館・村田澄夫氏 (山梨県南巨摩郡富士川町)

富士川町役場企画課 (山梨県南巨摩郡富士川町)